

## 【論文】

教材研究『淮南子』「塞翁が馬」(後編)  
——教材分析から教材解釈・学習指導法まで——

井 上 次 夫

(二〇二三年九月二十五日受付、二〇二三年十二月十三日受理)

Material development of Huānānzi's "Saio ga Uma (The old man lost his horse)":

Tsugio INOUE

From teaching material analysis to educational guidance methods

## Abstract

The new Japanese language subject for senior high school students, 'Language Culture', emphasizes students interpreting the classics in relation to themselves and modern society, forming their own ideas, and applying them to their lives. What high school Japanese language teachers need to do today is shift to and enhance classes that incorporate language learning, allowing students to engage independently and interactively and to achieve in-depth learning.

This section of the report (the latter part) examines the teaching of the Kanbun (classical Chinese) teaching material "Saio ga uma" (or, the future is unpredictable) from the perspective of idioms from Chinese history or classics, fables, and Taoist thought. From the perspective of an idiom from Chinese history or classics, it is discussed as an idiomatic phrase and as a tale. As a fable, examples of interpretations are provided that emphasize "forming one's own thoughts." From the perspective of Taoist thought, the position of Huānānzi on arguments about fortunes and misfortune, suggesting that one invites disasters and good fortunes oneself, is presented. Then, examples of practices for learning and teaching "Saio ga uma" are explored and examined, showcasing new methods using online videos, and the future of learning and teaching "Saio ga uma" is discussed.

**Key word:** Material Development, Huānānzi, "Saio ga uma"

Idioms from Chinese History or Classics, Fables,  
Taoist Thought, Online Videos, Learning Guidelines

(Received : September 25, 2023, Accepted : December 13, 2023)

## 要 旨

高等学校国語の新設科目「言語文化」は、生徒が自分や現代社会との関わりの中で古典を解釈し、自らの考えを形成し、人生に生かしていく観点を重視している。今後、求められるのは生徒が主体的・対話的に取り組み、深い学びを達成できる言語活動を組み込んだ授業への転換と学習内容の充実である。

そこで、本稿(後編)では、漢文教材「塞翁が馬」の学習指導の在り方を故事成語、寓話、道家思想の観点から検討した。故事成語の観点からは、これを熟語としての扱いと説話としての扱いに区別した。寓話の観点からは、「考えの形成」を重視し、寓意の解釈を比較する重要性を述べた。道家思想の観点からは、禍福は自らが招来するものであるという『淮南子』禍福論の立場及び究極の福を見通していた塞翁像について明らかにした。そして、教材「塞翁が馬」の従来の学習指導実践事例を取り上げて分析するとともに、ウェブ上の動画を用いた新たな学習指導法を提案し、今後の「塞翁が馬」の学習指導の在り方と方向性を示した。

キーワード：教材研究 淮南子 塞翁が馬 故事成語 寓話

道家思想 ウェブ動画 学習指導法

前稿（前編）では教材「塞翁が馬」（『淮南子』巻十八「人間訓」）について先行研究を踏まえた教材分析を中心としながら、次のような学習指導（授業）の実際に即した形で教材研究を行った。

はじめに

#### 一 教材本文

#### 二 導入段階

（一）作品解説 （二）舞台設定 （三）文章構成

#### 三 本文の分析

（一）教材名 （二）冒頭の一文 （三）展開部 （四）最後の一文  
以下、本教材を収載する「言語文化」の教科書三社の教材本文を改めて示す。【本文A】は筑摩書房『言語文化』（二〇二二年）、【本文B】は桐原書店『探求言語文化』（二〇二二年）、【本文C】は東京書籍『精選言語文化』（二〇二二年）である。構成、段落数字は筆者による。

【本文A】構成（一、二（1）・（2）・（3）・（4）、三）

一 夫禍福之転而相生、其変難見也。

二（1）近塞上之人、有善術者。馬無故亡而入胡。人皆弔之。其父曰、「此何遽不為福乎。」

（2）居数月、其馬將胡駿馬而帰。人皆賀之。其父曰、「此何遽不能為禍乎。」

（3）家富良馬。其子好騎、墜而折其髀。人皆弔之。其父曰、「此何遽不為福乎。」

（4）居一年、胡人大入塞。丁壯者控弦而戰、塞上之人、死者十九。此独以跛之故、父子相保。

三 故福之為禍、禍之為福、化不可極、深不可測也。

【本文B】構成（Aの二（1）・（2）・（3）・（4）、三）

二（1）近塞上之人、有善術者。馬無故亡而入胡。人皆弔之。其父曰、「此何遽不為福乎。」

（2）居数月、其馬將胡駿馬而帰。人皆賀之。其父曰、「此何遽不能為禍乎。」

（3）家富良馬。其子好騎、墜而折其髀。人皆弔之。其父曰、「此何遽不為福乎。」

（4）居一年、胡人大入塞。丁壯者引弦而戰、近塞之人、死者十九。此独以跛之故、父子相保。

三 故福之為禍、禍之為福、化不可極、深不可測也。

【本文C】構成（Aの二（1）・（2）・（3）・（4））

二（1）近塞上之人、有善術者。馬無故亡而入胡。人皆弔之。其父曰、「此何遽不為福乎。」

（2）居数月、其馬將胡駿馬而帰。人皆賀之。其父曰、「此何遽不能為禍乎。」

（3）家富良馬。其子好騎、墜而折其髀。人皆弔之。其父曰、「此何遽不為福乎。」

（4）居一年、胡人大入塞。丁壯者引弦而戰、近塞之人、死者十九。此独以跛之故、父子相保。

さて、本稿（後編）では、教材「塞翁が馬」の扱い方を故事成語、寓話、道家思想という三つの観点から考察し、それぞれの内容、解釈とともに学習指導法を示す。また、従来の学習指導実践事例、新たな指導事例について検討するとともに、ICT活用の観点からウェブ上の動画を教材に用いた今後の新たな学習指導法の在り方を提案する。

本稿の構成は次の通りである。

#### 四 観点別の扱い方

##### (一) 故事成語の観点

(1) 熟語としての扱い (2) 説話としての扱い

##### (二) 寓話の観点

(1) 寓話としての扱い (2) 本文A～Cの寓意 (3) 本文Cの解釈

##### (三) 道家思想の観点

#### 五 新たな学習指導法

##### (一) 「ウェブ動画」教材

##### (二) 本文と動画の比較

おわりに

#### 四 観点別の扱い方

本章では「塞翁が馬」を扱うに際し、故事成語、寓話、道家思想といった観点に基づくそれぞれの教材研究を行う。そして、それに応じた学習指導事例、言語活動について検討する。

##### (一) 故事成語の観点

最初に、故事成語の観点から教材「塞翁が馬」をみると、大きく熟語、説話という二つの観点から扱われていることがわかる。

##### (1) 熟語としての扱い

教材「塞翁が馬」を故事成語(熟語)として扱うことは、指導事項「時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解

を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること」(高等学校学習指導要領「言語文化」2内容「知識及び技能」(2)エ。以下、「言語文化」知技(2)エと記す。傍点は筆者。)の達成に結びつく。

教科書の「学習の手引き」などでは、「塞翁が馬」の意味を辞書で調べる、「塞翁が馬」という語を使って短文を作るといった活動を設けている。また、他の故事成語(例 杞憂、登竜門、鶏鳴狗盗、朝三暮四、五十歩百歩)の由来や意味を調べる活動も多くある。これらは、故事成語を古典の言葉として理解するとともに、現代に受け継がれている言葉として理解し表現することを目標としている。その際、種々の辞書や参考文献などを使用して対象とする故事成語を理解することにとどまらず、「故事」「成語」といった語自体の意味、「故事成語」という語の内実について質量ともに理解することによって、当該の故事成語に対する興味・関心を広げたり、学習意欲を高めたりすることが期待される。この学習指導では基本的に教材本文を必要としない。

#### 〔学習指導事例〕

##### ① 「故事成語」選び

まず、教材としての「故事成語(熟語)」の意味の理解を図るために、これと似た「四字熟語(漢字四文字で構成された熟語)」や「ことわざ(生活に役立つ知恵や教えなどを含んだ短い言葉、文)」との異同に着目し、個々の故事成語について調べさせる設問案を図1に示す。

〔問〕次の中から、故事成語(昔の話がもとになってできた言葉で、特に中国の話が由来になったもの)を選びなさい。

ア 推敲    イ 矛盾    ウ 登竜門    エ 一石二鳥  
オ 朝三暮四    カ 五十歩百歩    キ 良薬は口に苦し

〔答〕「アイウオカキ」

図1 「故事成語」選び

ちなみに、四字熟語はエ「一石二鳥」とオ「朝三暮四」、ことわざはエ「一石二鳥」（英国）とキ「良薬は口に苦し」（中国）である。なお、「ことわざ」の語が意味するところは広く、故事成語との区別だけでなく、四字熟語とことわざの両方に属するエ「一石二鳥」のような場合もあり区別が難しい。しかし、少なくともこの設問からは具体例を通して故事成語がどのようなものかについて確認することができる。<sup>注2</sup>

次に、「塞翁が馬」を故事成語（熟語）として扱う場合の言語活動はどのようなものだろうか。それを現行教科書に求めると、次の②の通りである。調べ活動に傍点、考察・発表活動に波線を付して示す。

## ②「言語活動例」

ア 故事成語の由来と意味を調べ、独自の故事成語事典を作成しよう。

イ 故事成語の意味を調べ、現代の日本語ではどう使われるのか、短文を作って確認し合おう。  
（東京書籍『精選言語文化』）

ウ 自分の好きな故事成語の意味と原典・由来を調べ、その故事成語を選んだ理由と合わせてグループやクラス全体で発表してみよう。

エ 実際の日本語の文章や会話において、どのような場面で用いられるだろうか。辞書やICT機器を利用して用例を調べてみよう。  
（数研出版『新編言語文化』）

オ 調べた故事成語が、現代の小説や漫画、ニュースなどでどう使われているか、事例を探し出そう。効果的に使われているかどうかを検証してみよう。  
（筑摩書房『言語文化』）

カ 次の「知っておきたい故事成語」（一五語）の読み方と意味、もと

になった故事について調べよう。また、これまでの体験の中から、これらの故事成語に結びつけられるできごとを探してみよう。

（三省堂『新言語文化』）  
キ 故事成語を一つ選び、意味と由来を調べ、「五・七・五」にして発表し、互いの作品を鑑賞し合おう。\*「五・七・五」の作品例Ⅱ「猿たちは暮れの四つに 目が届かず（朝三暮四）」「君と僕 呉越同舟 試験前（呉越同舟）」「チョコ一個 君は母から僕は義理（五十歩百歩）」  
（明治書院『精選 言語文化』）

以上のように、「故事成語（熟語）」の言語活動としては、故事成語の意味・原典・由来・使用例などを調べる活動から、故事成語を用いた短作文作成、好きな故事成語の発表、故事成語の使用例の検討、故事成語と似た体験の掘り起こし、また、故事成語に基づく川柳の作成や鑑賞の共有など発展的な考察・発表活動までの幅がある。それぞれの漢文教室の学習指導に適した言語活動の取捨選択が可能である。

## （2）説話としての扱い

教材「塞翁が馬」を収載する「言語文化」の現行教科書三社についてみると、二社（筑摩書房・桐原書店）では「塞翁が馬」を単元「故事成語」の教材、つまり「故事成語（説話）」として扱っている。「塞翁が馬」以外の教材としては「守株」「推敲」「知音」「漁父之利」「借虎威」「朝三暮四」（傍線は筆者。以下、同じ。）を収載している。他の一社（東京書籍）は「塞翁が馬」を単元「寓話」の教材、つまり寓話として扱っている。「塞翁が馬」以外の教材としては「借虎威」「朝三暮四」を収載している。

以上から、教科書は異なるが、「塞翁が馬」及び「借虎威」「朝三暮四」



の三教材は「故事成語（説話）」と「寓話」の両方の単元で収載されていることがわかる。教科書以外では、例えば『中国古代寓話集』（後藤基巳、東洋文庫、一九六八年）が「塞翁馬」及び「借虎威」「朝三暮四」「守株（まちぼうけ）」を寓話として収載している。すなわち、次の『故事・寓話Ⅰ』が述べるように、故事成語と寓話の間には明確には区別しがないものがあるといえるのである。<sup>注3</sup>

「故事成語」の来源としては、古代の寓言（寓話）、歴史故事、人物の逸話、古典作品中の名言名句などがあるが、それらの中には次巻の「寓話・逸話」と重なる部分が少なくなく、本巻に入れるべきか、次巻に入れるべきか判然としがたいものがある（四～五頁）

それでは、教科書の単元が「故事成語（説話）」と「寓話」では教材「塞翁が馬」の扱いはどのように異なるのであろうか。<sup>注4</sup>それともほぼ似たような扱いなのだろうか。これについては、次節で改めて述べることとし、以下、「塞翁が馬」を「故事成語（説話）」として扱う場合の学習指導事例について検討する。

#### 〔学習指導事例〕

##### ① 四コマ漫画制作（物語性への着目）

石井（二〇一一）によれば、故事成語を四コマ漫画にして理解を深め合う学習活動は以前から広く行われており、実践報告も多い。実際、四コマ漫画の制作は、故事成語が持つストーリー性と現代にも通用する伝承文化としての古典の本質とがよくマッチした学習活動であり、生徒の参加意欲も高いという。

石井の実践では、現代の日常生活にも様々な場面で使用される故事成

語に対する理解と関心を深めるという目標の下に、生徒は故事成語の内容をそのまま漫画化した「古代バージョン」と故事成語の内容を現代の日常生活に当てはめた「現代バージョン」の四コマ漫画を作成する。そして、「現代バージョン」を五人程度の学習班内で回覧し、四コマ漫画のタイトルとなる故事成語を考え解答する。正解が出ない場合、漫画の制作者は「古代バージョン」を見せ、班員との議論を通じて故事成語の内容に関して互いの理解を深める。なお、漫画を描くのが苦手な生徒には絵は棒人間でもよく、絵の巧拙よりもストーリーを重視することを助言したり、先輩の作品を見せたりといった支援を行っている。

このように、本事例は「故事成語（説話）」が有する物語性（ストーリー性）を捉えた中学校における実践（対象学年は不明）であるが、高等学校の古典漢文においても教材内容の理解を促すための有効な学習活動の一つになると思われる。<sup>注5</sup>

##### ② 全体像把握（文章構造への着目）

阿部（二〇〇〇）は「国語Ⅰ」において、説話としての教材「故事成語」を書き下し文から口語訳、そして教師の解説を通して内容を理解する従来の漢文学習から脱却し、まず説話としての故事成語の文章構造を捉えることから始める学習指導（全三時間）を実践している。

第一時をみると、導入段階で漢文学習の意義の理解、展開段階で歴史的背景の説明、全文の音読を行った後、学習プリントを使用して文章構造の理解を行う。これは、登場人物の確認、三つの出来事の構成（出来事・人々の反応・塞翁の反応）の共通性に気付き、説話の文章展開を理解することに結びつけるものである。<sup>注6</sup>そして、最終的に説話の結末はどうなったかを加えて内容を整理した表を作成し、あらすじの理解に至るという。第二時以降では出来事に対する人々と塞翁の反応の違いの確認、塞翁の言葉にある反語の句法の理解、「塞翁が馬」の主題を考える。

第三時では書き下し文の確認、塞翁の生き方についての討議を行う。

本事例は、これまで多くの漢文教室で行われてきた「音読→書き下し文・語彙・句法→口語訳→内容解説→主題把握」のようなボトムアップ方式（積み上げ式「部分→全体」）から、「題名読み→音読→舞台設定（5W1H）の把握→文章構造の理解→内容読解・語彙・句法・書き下し文・口語訳→主題把握」のトップダウン方式（全体像把握式「全体→部分」）への転換の試みであるといえる。今後、このようなトップダウン方式の授業が生徒の主体的読みを導き出す有力な手立てになると考える。

## （二）寓話の観点

### （1）寓話としての扱い

最初に、改めて教科書三社における「塞翁が馬」の扱いを確認すると、これを単元「故事成語」の教材とする二社のうち、一社（本文A）は、たとえ話の部分（「近塞上之人」父子相保。」とその前文（「夫禍福之転而相生、其変難見也。」）及び後文（「故福之為禍、禍之為福、化不可極、深不可測也。」）を加えたいわゆる全文掲載タイプである。もう一社（本文B）は、たとえ話の部分に後文のみを加えた後文追加タイプである。いずれも、故事成語に関しては「中国の古い出来事や書物から生まれた数々の故事成語が、現代においてもわたしたちの生活に溶け込み、息づいている（中略）その由来を調べてみることで、漢文の世界に深く分け入ることができる」といった説明によって生徒が故事成語に親しむことを促している。

一方、「塞翁が馬」を単元「寓話」の教材とする他の一社（本文C）は、たとえ話の部分のみを収載し、前文と後文は収載しないいわゆる説話タイプである。そして、寓話に関しては「寓話は、春秋・戦国の激動の時

代を背景として盛行したものであり、それらは学問の論争や政治の折衝の中で、生き生きとした説得力にあふれる表現性を身につけていった。」と説明している。さらに、「淮南子」の道家的な寓話を読むことを通して、未来を見つめるものの見方を形成する基盤<sup>基盤</sup>としたい」と述べて、寓話が過去に果たした役割とともに寓話が新たに果たすべき役割を指摘している点は注目に値する。

次に、「塞翁が馬」を寓話として扱うことについてみると、指導事項の一つ「文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること」（言語文化）思判表B(1ウ)の達成に結びつく。すなわち、学習指導においては、教材「塞翁が馬」に何が書かれているかという内容理解に終わらせず、それがどのように書かれているか、それが文章の目的に照らしてどこまで効果を上げているかということを評価対象とするのである。その際、扱う本文A・Cの違いにより、その指導内容に異なりが生じることが予測される。しかし、指導者がその異なりを押さえてさえいれば、それぞれの漢文教室で適切な指導法の工夫、指導の手立てを講じることはあながち難しくないだろう。

端的にいえば、本文A・Bの場合、これは主題を述べる文章（論説）であるとして冒頭または最後の一文との関係から展開部（寓話）を捉えることに指導の重点を置く。一方、本文Cの場合、これは故事を伝える文章であるとして展開部（説話）の文章の構成や展開に重点を置く指導を行うのである。文章の構成や展開、表現の仕方、特色などに関しては前稿（前編）の「三 本文の分析」で既に述べた。

また、「塞翁が馬」を寓話として扱うことは、もう一つの指導事項である「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと」（言語文化）思判表B(1オ)の達成に結びつく。すなわち、本文の解釈と自身の「考

えの形成」を目標とする指導を行うのである。その際、扱う本文がAとCの違いにより、解釈に異同が生じることが予測される。このため、指導者である教員には学習者である高校生が寓話「塞翁が馬」に親しみ、自己を見つめ、将来の自己のあるべき姿、生き方が展望できるように適切な指導法の工夫、指導上の手立てを講じることが求められる。

## (2) 本文AとCの寓意

ここでは、本稿の冒頭に掲載した本文AとCを扱う場合のそれぞれの寓意の解釈について比較・検討を行う。

金谷（一九九三）は、説話部分（本文C）の概要を紹介した後、次のような解釈を行っている。

これは、本質的にたいへん楽天的な考え方で、苦難にもへこたれない知恵を教えています。また、有頂天を警戒する教訓にもなっています。易では、「もの極まれば変ず」といい、別の諺では「禍福は、あざなえる縄のごとし」ともいいます。「飄風、朝を終えず」という諺もあって、どんなに激しい嵐でも、いつまでもつづくものではないありません。辛抱していればいつかはおさまるといふ、たくましい人生観を示しています。<sup>注9</sup>

また、向井（二〇〇二）は、次のような解釈を行っている。

この説話が説くのは運命への随順ということである。もともと、悲惨な運命への随順、ないし運命運、ということではなく、運命に従っている幸福になる、つまり僥倖による開運という運命オプティミズムでもある。全てが神意のはからいというような意識とも言える

（中略）禍を転じて福となすという点に中心的意図があるようにも読める（後略）<sup>注10</sup>

両者とも、確かに現代日本人ではなく、当代の中国人の状況に即して考えてみれば、説話の展開（禍・福→禍・福）、そして結末（福）のように最終的に結果としてもたらされる「福」に重点を置く解釈が妥当であるかのように思われる。

しかし、扱う本文がA・Bの場合には、冒頭の一文または最後の一文と展開部（寓話）の内容とに整合性（主題と例証）のある解釈が必要である。次は、そうした点を踏まえた教訓的解釈の例である。

人生においては往々にして一見幸運と見えることが急転して不運のもととなったり、不運に見えることが幸運に転じたりする。幸福であるからといって、いい気になってもいけないし、不幸だからといって、いたずらに嘆くこともないといった教訓（後略）<sup>注11</sup>

さらに踏み込んで、森野（一九八七）は、塞翁の生き方を「福にもおごらず、禍にも嘆きにせず、将来を見すえて、現在に慎重に対処する」と教訓的に解釈している。すなわち、禍にあっては悲嘆してやる気をなくすのではなく、希望を捨てない。一方、福にあっては有頂天になつてしまふのではなく、しっかりと将来に備える。そういった禍福に影響されない、先のことを考えた塞翁の生き方の重要性を読み取るのである。これには、「禍福の変化には、人間には推し測れないものがある。しかし、人間と無関係にそれ独自で変化するわけではない。人間の行ないと微妙にかかわりあいながら、それは変化する」という森野の解釈が基底にあると考えられる。

これに対し、『故事・寓話』は、「作者がこの話を通してわれわれに訴えようとするのは、人生万事を運にまかせ、すべてをあきらめて生きよというのであろうか。それとも、たとえ人生の実相がそうであっても、もっと積極的に自分で自分の運命を切り開いてゆけというのであろうか」（二四九頁）と問いかける。そして、「人生万事諦めが肝腎といった方向で解したとしても間違っているわけではなからう。」と前者の寓意を容認しつつも、「目前の禍福に左右されず、将来を見通して隠徳を積むように努めよというふうに、積極的意味で解する方がより多く、またより正しいといえるのではなからうか」（二五〇頁）と後者の寓意への支持を示している。

以上から、「塞翁が馬」の寓意については次のように整理される。

#### i 運命（禍福）への随順

㊦ 僥倖による開運…運命に従っていると幸福になる（楽観的）

㊧ 万事諦めが肝心…運命に従う以外はないと諦める（悲観的）

#### ii 運命（禍福）への対処

㊨ 運命に一喜一憂せず、将来を見据え隠徳を積む（教訓的）

この結果、運命に人間が抗うことは難しいことだが（㊦㊧）、だからといって人間は運命に翻弄されるのではなく、自らの考えや行いによって自身の人生を切り開こうとすることが運命への対処法である（㊨）という寓意を「塞翁が馬」から読み取ることになる。

なお、湯浅（一九八五（a））は、「塞翁が馬」が入門期教材として採用されている点を考慮しつつも、寓話が「その思想的背景の究明に向かわず、人間の幸・不幸は計り難いというその故事を現代社会との関わりから鑑賞させ、今日での使用例を検討し、他の成語の意味を調べる」（四三頁）

という方向での取扱いに留まることに疑問を呈し、次のような原文の意に即した思想的理解の必要を主張する。

対象世界の側には「禍・福」という絶対的な区分はない。我々の勝手な価値判断によって、それが絶対と見えてしまうのである。従って、禍・福は本来相対的なものにすぎず、「転じて相生する」ものにすぎない。「術を善くする」塞翁のみが、その世界の実相に沿った予言をし、他の人々は乏しい認識能力によって、世界の実相と乖離した固定的・一方向的な価値判断を下してしまったのである。<sup>注12</sup>

これを踏まえると、先の寓意の整理「ii 運命（禍福）への対処」には新たに次のように㊩を付け加えることになる。

#### ii 運命（禍福）への対処

㊨ 運命に一喜一憂せず、将来を見据え隠徳を積む（教訓的）

㊩ 運命が相対的なものである世界の実相を捉える（思想的）

#### (3) 本文Cの解釈

ここでは、本文A～Cに共通する説話部分（本文C）を取り上げる。

この場合、現代高校生はまずは説話「塞翁が馬」を現在の社会及び自身と関係付け我が事として向き合い、解釈することが重要である。すなわち、「作品を読み深めて、単に内容を捉えたり解釈を深めたりすることにとどまらず、自分が対象をどのような視点、観点、立場によって、どのような感性や感情をもって、どのような認識や解釈の仕方によって捉えるかという、対象に対する向かい方自体の深まり」が求められる。<sup>注13</sup> このことに関しては、前稿（前編）の「三 本文の分析」でも少し触れたが、以下、改めて解釈を示す。



## ① 構成と展開

本文Cは、冒頭で登場する主人公（近塞上之人、有善術者）について紹介した後、時間軸に沿って生じた出来事（禍・福）、そして登場人物（塞翁・人々）の反応が図2のように語られ展開していく。

1 登場人物の紹介	【舞台設定】
2 飼育馬の逃走（禍）、人々の慰めと老人の返答	【出来事①・反応】
3 逃走馬による駿馬の連れ戻り（福）、隣人の祝いと老人の返答	【出来事②・反応】
4 落馬による息子の大腿骨折（禍）、隣人の慰めと老人の返答	【出来事③・反応】
5 戦争から生命を保った父と息子（福）	【出来事④・結末】

図2 説話の構成と展開

そこでは情景描写や登場人物の心情などに関する具体的な描写は見られない。出来事だけが淡々と叙述されていく。しかし、そこにこそ、現代高校生がこの説話を身近に引き寄せるとともに、当時の状況を理解しながら本文を主体的に読み解く契機がある。つまり、説話の舞台となっている時代や場所、「塞」「術」「胡」「髀」などの語の意味内容、「之」「此」「其」などの指示内容、「何遽」「独」の句法などを踏まえながら、登場人物、寓話の内容についてどこまで理解を深めることができるかが試されるのである。

その際、鍵となる点の一つは、塞翁が近所の人々の慰めや祝いに対して発した言葉はどのように解釈すべきものであるか。それはどういうことと起因するののかという点である。

## ② 内容の解釈

本文Cの冒頭の一文「近塞上之人、有善術者。」の理解を足掛かりとしながら、以下、本文の内容を具体的に解釈していく。

説話の主人公は教材名にある塞翁であり、話題は塞翁の馬である。本文の冒頭部分で、塞翁が万里の長城辺りに近いところの住人であり、吉凶禍福を占うことに優れた人物であることが紹介される。長城の外側は異民族である遊牧騎馬民族（匈奴）の地である。

ある時、塞翁の馬が理由もわからぬままに逃げ出し、匈奴の地に入るといふ出来事が起こり、そこから説話が展開を始める。当時、馬は、中国北方の辺境での生活に欠かせない貴重な動物であった。そこで、塞翁（其父）の近所の人々はこの出来事を禍（わざわい、不運、災難）と捉えて塞翁を見舞う。これに対し、塞翁はこの出来事をこれから先の福（さいわい、幸運、幸福）の種と捉えている。塞翁は占い上手であったから、占いの結果であろうか、沈着冷静に「このことがどうして福とならないことがあるだろうか。（いや、福になる）」と発する。近所の人々はそれを奇異に感じながらも、塞翁の予言と理解したのかもしれない。一方で、塞翁は占いが巧みであることはもちろん、長年その地に住み、徳のある年長者であることから、放牧馬にあつては牡馬が時に突然、姿を消し、その数か月後、雌馬を引き連れて戻ってくるといった例があることを知っていたのではないかと考えられる。

はたして、それから二、三か月後、逃げ出した馬が匈奴の地から駿馬を塞翁の家に連れ戻るといふ出来事が起きる。そこで、近所の人々がこれを福と捉えて塞翁を祝福する。ところが、先の予言的中させた塞翁は、前回と同様、沈着冷静に「このことがどうして禍とならないことがあり得るだろうか。（いや、禍になり得る）」と発する。塞翁は、家に雌の駿馬が来たならば、子馬が生まれ、その環境では我が子が乗馬を好き

になる。そして、その子が馬に乗れば、落馬することも、大けがをすることもある。そのような例を知っていた。あるいはそう予測していたのかもしれない。現代高校生で例えるならば、オートバイ好きになった高校生がそれに乗れば、交通事故に遭う可能性が高まるのと同じである。

はたして、その後、塞翁の家は駿馬が次々と子馬を産んで良馬に富んだ。その環境で自然と乗馬が好きになった息子が、ある時、落馬して片方の太ももの骨を折るという大けがをする。そこで、再び、近所の人々はこの出来事を禍と捉えて塞翁を見舞う。ところが、塞翁はこの出来事を福の種と捉えていたのか、または落ち着き払って「このことがどうして福とならないことがあるだろうか。（いや、福になる）」と発する。塞翁は、辺境の地に住んでいる以上、これまでの経験や知見からしても、また、確率的に考えても、この先、いつ匈奴が長城を越えて攻め込み、この地が戦場となってもおかしくないことを弁えており、その時には息子が徴兵される可能性があることを承知していたと考えられる。

はたして、それから一年後、匈奴が大群で長城を越えてこの地に侵攻し戦争が勃発する。一人前の若者たちは兵隊として弓を引いて戦ったが、彼らはもちろん、とりで付近の人々は十人中九人までが戦死した。ところが、この塞翁の家だけは、息子は足の障害のために兵役を免れて戦争に加わることがなかったため、また、その父は父で戦争が起これば人々に大きな犠牲が伴うこと、その時、どう身を守ればよいかを知っており、その手立てを講じた結果、親子とも互いに無事で済んだ。

以上は、次の楠山（一九八三）の解釈と相通じるものでもある。

禍福のめまぐるしい転変を述べる本寓話の教訓は、単に一時的な禍福に一喜一憂するなかれ、というにとどまるものではない。主人公である塞翁は、もはや禍に転ずることのない究極の福を見通してお

り、さればこそ眼前の禍福に心を動揺させなかったのであって、寓話の意とは、こうした塞翁の叡智と強固な意志を成功の要件として示すことにあった。<sup>注14</sup>

すなわち、これは「善術者<sup>注15</sup>」である塞翁の人物像をどのように捉えるかという問題に関わる。さらに、教科書の本文（A～C）の範囲内で解釈するのか。それとも『淮南子』巻十八「人間訓」との関係で解釈するのか、という問題にも発展する。

さて、「塞翁が馬」を寓話として扱う場合の学習指導はどうだろう。現行教科書をみると、「塞翁が馬」を寓話として単元で扱っているのは東京書籍『精選言語文化』のみであり、その本文はC（説話部分）であった。しかし、本文はA・Bのいずれであっても寓話としての扱いは可能であり、むしろ本文Cだけでなく、前文と後文、または後文のあるほうが寓話として導入しやすいと思われる。一方、本文Cの場合、説話部分だけであることから故事成語としての扱いにとどまりがちで、寓話としての寓意を考えさせるためには、そのことを明確に目標として位置づけ、相応の指導の手立て、工夫が必要になるといえる。

#### 〔学習指導事例〕

##### ① 「異種寓話」の比べ読み

立川（二〇〇五）は、高校一年生を対象に寓話六教材（兼愛（墨子）「率獸而食人（孟子）」「有座之器（莊子）」「混沌（莊子）」「且買履（韓非子）」「不死之藥（劉向）」）を全八時間で扱う。学習目標は、教材に興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つこと、諸子百家の中国思想に触れ、各々の特徴を十分に理解することの二点である。寓話は、教訓や風刺を含み、ストーリー性に富んだ内容を持つ。また、分かりやすい具体例を用いた

面白さもあり、生徒たちが親しみやすい教材であるという。

第一次（四時間）では諸子百家に関する調べ学習、それに基づき作成したレジュメによる口頭発表を行う。第二次（三時間）が寓話の授業である。教師が作成した予習プリントに基づく講義式授業だが、各寓話が意図する教訓に関しては、詳細は不明ながらも、作者の思想も踏まえた活発な意見交換が行われたようである。

本指導事例の注目点は、最初に諸子百家の思想を調べ学習で理解した上で、実際に寓話の意図（寓意、教訓）を議論した点である。「塞翁が馬」の場合には、作者の劉安や道家思想について事前学習を行うことになると思われる。また、この授業を発展させて、それぞれの遊説家の立場から寓話を用いて意図を伝え合うロールプレイやジグソー法を用いた学習指導を構想することもあり得る。

一方、菅原（二〇二三）は、高校二年生を対象に寓話に示された寓意、教訓を読み取って一般化し、それを自己の生活体験に結びつけることを目標とする授業を実践している。

そこでは、寓話の「獸を率ゐて人を食ましむ（孟子）」、「宥座の器（莊子）」、「夢に胡蝶と為る（莊子）」、「尾を塗中に曳く（莊子）」、「慈恵国を亡ぼす（韓非子）」、「且に履を買はんとす（韓非子）」の六教材を全七時間で扱っている。菅原が引用するように、寓話には現代の高校生に「時空を超えて訴える力」がある。そして、確かに、寓話は身近な事柄に関連付けていくことができる適切なレベルの古典教材であり、古典に生徒を近づけ親しませる、または忘れていたものに気付かせる格好の古典教材であるといえるだろう。

本指導事例で注目される点は、それら六教材の中から「一つを選び、自分も似たような体験をしたり見たたりしたことをまとめてみよう」という課題を設け、例えば「宥座の器」では「バランス」、「夢に胡蝶と為る」

では「区別・差別のないこと」、「尾を塗中に曳く」では「自由」などのキーワードを挙げさせてから、それをヒントに生徒の身近な体験や日常生活での見聞を具体的に引き出している点である。

さて、教材「塞翁が馬」の場合では、例えば、教科書収載の他の寓話教材「借虎威」「朝三暮四」などを扱うことで「異種寓話」の比べ読みの学習を行うことになる。<sup>注16</sup>この学習は、それらを比較して論じたり批評したりする言語活動（言語文化）<sup>注16</sup>思判表B(2)ウに該当する。また、「様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり、我が国の伝統と文化について理解を深めたりするのに役立つこと（言語文化）」3内容の取扱い(3)オウに<sup>注16</sup>関係するものである。

## ② 「同種寓話」の比べ読み

加藤（二〇二二）は、柳宗元の寓意を含む「黔之驢<sup>けん</sup>」（大修館『言語文化』収載）におけるリアリティを重視した表現について考えさせることを目的に、これと『伊曾保物語』「獅子王と驢馬<sup>う</sup>との事」との比べ読みを実践している。

授業の第一次では「獅子王と驢馬との事」の教訓「それ、下輩の身として、人と争ふ事なかれ。やゝもすれば、我が身の程をかへりみずして、人と争ふ。果てには恥辱を受くものなり」を導き出す。そして、第二次では「黔之驢」において怒りに任せて虎に立ち向かい力量を悟られ殺された「驢」は、権力に立ち向かったことで左遷された柳宗元が己を仮託したものであることを理解する。そして、作者である柳宗元にとって寓話を記す行為は、「現実での鬱憤をぶつけることであり、現実で果たしえない理想の体现であり、他者への批判であり、表現者自身に向けられた自戒」であることの理解を図ろうとする。

本指導事例は、同種の似た内容の説話であっても、寓話に込められた

作者の真意（寓意）を読み取るには、内容や表現などの比較に加え、背後にある時代や社会、思想などにも目を向ける必要を示唆する。

### ③ 「同話寓話」の比べ読み

井上（二〇二〇）は、「塞翁が馬」を日本で享受・受容した説話集として次の三作品を挙げ、文章構成と主題の観点から分析している。

ア 教訓説話集『十訓抄』（作者不明、一二五二年。『新編日本古典文学全集』六ノ三十一）

イ 世俗説話集『古今著聞集』（橋成季、一二五四年。『日本古典文学大系』「唐土北叟が馬の事」）

ウ 仏教説話集『沙石集』（無住道暁、一二八三年。『日本古典文学大系』「先世房ノ事」）

これらの当該部分を教科書の収載部分に対応させると、ア『十訓抄』は本文A（主題提示・例証・主題確認）、イ『古今著聞集』は本文B（例証・主題確認）に対応する。ウ『沙石集』は概ね本文Aに対応するが、主題が庶民を仏道に導き、仏法理解を深めることにあるため、実質上、本文C（例証）に当たる。

そこで、これら古文の説話のいずれかを漢文の寓話「塞翁が馬」の比べ読みの対象として取り上げ、日本での「塞翁が馬」の享受・受容、また寓話（寓意）の理解の観点から考察を行うのである。このような学習指導の実践は、「言語文化」における指導事項（思判表B(1)、言語活動（同(2)ウ）に限るものではない。すなわち、高等学校二年生以上が履修する選択科目「古典探究」の場合には「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること」を指導事項（思判表A(1)エ）に設定し、<sup>注18</sup>「同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、また「思想

や感情などの共通点や相違点について論述したり議論したりする」言語活動（同(2)イ）として実践することが考えられる。

以上、寓話教材一般及び寓話「塞翁が馬」の比べ読みの学習指導事例について①異種寓話、②同種寓話、③同話寓話の観点から取り上げ、指導事項との関係を明らかにした。

### （三）道家思想の観点

寓話「塞翁が馬」を道家思想の理解教材として扱うことは、湯浅（一九八五(a)）が主張するところでもある。すなわち、「塞翁が馬」の出典『淮南子』は先秦から秦漢にかけての思想的文献の一つであり、寓話・故事は自己の主張を有利に展開し、読者を納得させるための手段として配置されている。それによって何を主張しようとしたのか。その「伏せられた真相」を解き明かす必要を指摘しているのである。ただし、これは指導上の制約がある入門期教材というよりも、指導上の余裕がある応用期において再び本教材に目を向けるといふ意味合いが強い。本教材を道家思想として扱う場合の指導内容については湯浅（一九八五(a)）に譲ることにし、本節では「言語文化」における指導事項との関連から検討したい。すると、道家思想面の学習指導については、指導事項「作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること」<sup>注19</sup>（思判表B(1)エ）が該当すると考えられる。

#### 〔学習指導事例〕

##### ① 諸子百家の調べ学習

立川（二〇〇五）の学習指導については、既に異種「寓話」の比べ読み（本稿の四(二)）で取り上げた。しかし、ここでは道家思想の観点か



ら、第一次（四時間）で行われた諸子百家に関する調べ学習、それに基づくレジュメを用いた口頭発表を取り上げる。

立川は、一時間目に諸子百家に関する概説を国語便覧で行った後、二時間目に「春秋時代、戦国時代、孔子、孟子、荀子、墨子、韓非子、老子、莊子、『戦国策』」について班単位（四、五人毎の十班）で調査、口頭発表用レジュメを作成させた。そして、三、四時間目に口頭発表、質疑応答、生徒間の相互評価を行っている。

本指導事例の注目点として、生徒自身の暮らしや考えを振り返りながら個人の思想を捉え直すための質問「自分が王様だったら採用したい思想家とその理由」を設けた点である。この結果、現代に生きる自分たちの考えと照らし合わせて各思想の理解が深められたようである。

## ②『淮南子』巻十八・二十一の活用

ここでは、同じ作品内の類話に着目した筆者の学習指導事例案を提示する。授業の最初に、作品の時代背景、諸子百家思想の概略、その中の『淮南子』の位置付け（雑家）を説明する。その後、『淮南子』巻十八「人間訓」の冒頭の関係部分、巻二十一「要略」の当該部分「人間者、所以観禍福之変……無傷乎讒賊螫毒者也。」の内容について、書き下し文、口語訳などにより理解する。それから、「塞翁が馬」の直前にある類話「黒牛生白犢」との内容比較を行う。

この学習指導は、二つの説話の内容、構成、寓意の類似点を明らかにする活動を通して、それらを収載する作品『淮南子』の思想に迫ることを目的とするものである。その思想の内容については次の指導事例案③で取り上げる。

## ③思想の解釈比較

「古典探究」における学習指導では、作品の思想に関する解釈を比較する活動を提案することができる。つまり、教材に対する次のような複数の観点による解釈を提示し、それについて論じたり批評したりする活動を通して「塞翁が馬」の内容解釈を深めるのである。<sup>注20)</sup>

i 対象世界の側には「禍・福」という絶対的な区分はない。我々の勝手な価値判断によって、それが絶対と見えてしまうのである。従って、禍・福は本来相対的なものにすぎず、「転じて相生する」ものにすぎない。「術を善くする」塞翁のみが、その世界の真相に沿った予言をし、他の人々は貧しい認識能力によって、世界の真相と乖離した固定的・一方的な価値判断を下してしまったのである。<sup>注21)</sup>

ii 説話の趣意は、ただ単に一時的な禍福に一喜一憂することの愚を戒めるにとどまるものではなく、実は、むしろ禍福の変転極まりなき人生においていかに終局の福を獲得すべきかを説くにある、と思われる。塞翁が善くした「術」とは、まさしく終局の禍を退け福を得るためのものであつて、こうした見通しがあればこそ、塞翁は眼前の禍福に一喜一憂しなかったのである。<sup>注22)</sup>

このような解釈の比較を通して、例えば、湯浅（一九八五(a)）が述べる「人間訓」のテーマとして、絶対的な認識と思われる禍福や利害などが実は世俗の相対的な価値判断に過ぎず、対象世界の真相と人間の認識能力とのずれの存在であることが見えてくると思われる。

一方、「塞翁が馬」の禍福についての考えを深めることを目標に、『淮南子』に窺われる次のような禍福論（楠山一九八三）を提示し、<sup>注23)</sup>論じたり批評したりする活動を提案することができる。

## i 禍福は己の外にあるとする論

孔孟の儒家思想。善行を為すか否かは人である己にあるが、結果としての禍福は己ではなく天にある。そこで、君子たるものひたすら善を為すに努め、禍福はこれを度外におく。

## ii 中間的な禍福論（得福・避禍については己の責任とする論）

道家思想。みだりに福を得ることを求めはしないが、訪れた福（無為の所産）を辞退するか己のものとするか（得福）は人の責任である。福利を求めることが却って禍害を招く原因となるため、人は福を求めないこと（避禍・無為）により最大の幸福（禍のない状態）を保つことができる。

## iii 禍福は己より生ずとする論

儒家・道家の思想。「人間訓」冒頭部分に「夫禍之来也、人自生之、福之来也、人自成之、禍與福同門、利與害為隣、非神聖人、莫之能分。」（夫れ禍の来るや、人自ら之を生じ、福の来るや、人自ら之を成す。禍と福と門を同じくし、利と害と鄰を為す、神聖の人に非ざれば、之を能く分つ莫し。）とある。禍福は自ら招いた結果である。人は禍にかからぬように周到に用意するとともに、ひたすら善を為すこと<sup>注24</sup>によって福はおのずからに至る。

以上、「古典探究」における作品の思想の解釈を比較する活動では、各人の経験や考えを基に行うグループ協議、全体発表による議論を通して深い学びに達することが期待される。これは、指導事項「古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること」（思判表A(1)オ）の達成に結び付く。

## 五 新たな学習指導法

前章では、故事成語、寓話、思想の三つの観点から「塞翁が馬」の扱い方、内容、解釈について述べるとともに、それぞれの学習指導の方法、言語活動について検討を行った。

本章では、ウェブ上での入手が容易な動画（ウェブ動画）<sup>注25</sup>を教材として用いる新たな学習指導法について提案する。

これまで教育現場で使用してきた視聴覚メディア教材（ビデオ、DVDなど）は「補助教材」であり、主教材に関する資料提示や内容解説が主であった。これに対し、本稿で取り上げるウェブ動画は、同じ視聴覚メディア教材であっても、これを視聴し、その内容を学習指導の対象とする「投げ込み教材」であるという点で異なる。従来、このようなウェブ動画を用いた指導実践事例は管見の限り、報告がない。

そこで、二〇二四年度から高等学校で新学習指導要領の全面实施を迎えるに際し、そこで重視されているICTの有効活用<sup>注26</sup>の観点から複数のウェブ動画を教材とする指導事例案を提示する。これは今後の国語科の学習指導にとって有用であり、時宜を得たものであると考える。

## (一) 「ウェブ動画」教材

「塞翁が馬」に関する動画はウェブ上に多種多様、多数あるが、ここでは内容理解を深めることを目的に説話タイプの動画を取り上げ、分析を行う。ウェブ動画は使用言語、対象とする視聴者、再生時間などを選択基準とし、便宜上、次の一〇本を取り上げる。かぎ括弧内の動画タイトルは筆者。URL、再生時間は後掲「資料1」。

- ア「きつずゼミ 塞翁が馬」猫先生がイラストで話を説明。
- イ「おはなしヨーガ 塞翁が馬」小児による絵本の読み上げ。
- ウ「人生（人間）万事塞翁が馬」字幕付きイラストで説明。
- エ「たいやきのひとりごと 塞翁が馬」字幕。音声なしのイラスト。
- オ「ゆつくり古典9『塞翁が馬』（淮南子）」字幕。問答の音声で説明。
- カ「ことわざ 人間万事塞翁が馬」字幕付きアニメ。音声で解説。
- キ「Chinese idiom stories 《塞翁失馬》」英語で説明（静止画）。
- ク「翻訳 人間万事塞翁が馬 アラン・ワッツ」字幕。英語で説明。
- ケ「5分鍾児童動画成語故事系列 28塞翁失馬」中国語版アニメ。
- コ「啞拉成語故事 塞翁失馬」中国語版アニメ。

使用言語からみると、日本語（ア）（カ）、英語（キ）（ク）、中国語（ケ）（コ）の三か国語版を取り上げる。通常は日本語版を使用するが、例えば、指導事項「我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること」（「言語文化」知技(2)ア）または「古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること」（「古典探究」知技(2)ア）の観点による学習指導においては外国語版を使用する。

次に、動画の主な視聴対象者からみると、日本語版は概ね小学生以下（ア）（ウ）、中学生・高校生（エ）、高校生以上（オ）（カ）が対象になるだろう。一方、外国語版（キ）（コ）は高校生以上が視聴対象者となる。また、動画の再生時間は経験上、およそ三、四分間が集中して視聴するのに適当であると思われる。

動画の内容構成については、説話部分だけの動画①を除くと、他は説話の前または後に多寡はあるが、解説（意味、由来、出典、語彙、用法、寓意、教訓など）が行われている。それぞれの解説内容をどの範囲で使

用するは学習目標との関係で指導者が決めることになる。

さらに、「塞翁が馬」の本文と動画の具体的な内容を見ると、各動画によって異同、精粗がみられる。例えば、動画⑤⑥は本文の内容を現代風に簡略化して表現している。これに対し、動画⑦⑧⑨は本文の内容をほぼ忠実に表現し、かつ補足説明を加えていることから新たな気づきや発見を導くことを目的とする学習活動での使用が考えられる。また、例えば、動画⑩は英国生まれの作者アラン・ワッツの解釈が反映されており、外国文化に目を向けさせる契機ともなる。<sup>注27</sup>

## （二）本文と動画の比較

本節では、学習指導におけるどの段階で、どの動画を、どのように使用すれば効果的な指導が可能になるかを考える。また、教材本文と動画の内容との異同を整理し、論じたり批評したりして「塞翁が馬」の内容理解を深める言語活動（本文と動画の比較）を提案する。

### （1）使用段階

学習指導での使用段階として、第一次（導入段階）、第二次（展開段階）、第三次（発展・まとめ段階）において、どの動画をどのように使用するかについて述べる。

#### ①第一次（導入段階）

指導目標が説話の概要を理解する場合は説話部分だけの動画①、説話内容への動機付けの場合には映像を主とする外国語版動画⑤（⑦）を使用することが想定される。

#### ②第二次（展開段階）

教材「塞翁が馬」の読解上の重要部分に焦点を当てて理解を深めるこ

とを目的とする動画の使用が考えられる。

例えば、塞翁の発言（反語の句法）の理解を図る目的の場合、日本語版動画⑦～⑩の発言部分を取り出して比較する。また、それらと英語版動画⑪⑫と中国語版動画⑬⑭の発言部分を比較することで興味・関心・意欲を引き出し、反語の理解を深めることが期待できる。但し、動画のすべてを再生、視聴させる必要はなく、事前に該当部分を編集したり、ワークシートを準備したりすることで効率的な指導が可能となる。加えて、出来事や塞翁の発言に対する隣人の反応をこれらの動画視聴により具体化することで説話に親しみ、内容理解を深めることが期待される。

### ③第三次（発展・まとめ段階）

教材本文の内容理解を動画の場合と比較することによって、その理解を修正したり補充、深化させたりすることを指導目標とする。

例えば、動画⑮を取り上げてその解説内容（意味、由来、出典、語彙、用法、寓意、教訓など）を論じたり批評したりするのである。このことは、現代高校生が故事成語・寓話の「塞翁が馬」を自身の将来の生き方、生きる糧（座右の銘）にする機会となり得る。<sup>注28</sup>

### (2) 言語活動

ここでは前項の第二次、第三次で示したウェブ動画の内容において重要な二点、Ⅰ隣人と塞翁の応答、Ⅱ「塞翁が馬」の寓意に関する異同を整理する言語活動を示す。動画の具体的内容は後掲「資料2」。

#### Ⅰ 隣人と塞翁の応答

まず、隣人と塞翁の応答について動画の場面ごとに整理し、比較する言語活動を提示する。

#### 【第一場面】飼育馬が逃走する

#### ① 隣人の反応「人皆弔之」

塞翁の飼育馬の逃走に対する隣人の反応は、多くは教材本文通りに「塞翁を慰めた」と行動を表現するものだが、これ以外に「残念ですね」「災難でしたね」と具体的な会話内容を示すものがある（⑦⑧⑨）。また、塞翁が高齢であることから馬の逃走を気に病まず体に気を付けるようにと気遣いの言葉を発するものがある（⑩）。これらを生かした発問については前稿（前編）三（三）③参照。

#### ② 塞翁の反応「此何遽不為福乎。」

隣人に対する塞翁の反応は、本文通りに塞翁の発言「いや、このことが福になるかもしれない」のように発言意図を捉えたものを示すものが多い。これ以外には「ほほ笑んで言った」「穏やかに言った」のように発言の様子、発言に対する解釈を加えるものがある（⑪⑫⑬）。一方、⑭「ひどく落胆する」のような疑義のある解釈には注意を要する（以下、同じ）。なお、塞翁の発言には反語の直訳もあり、中国語訳、英語訳を通して句法の理解を深める活動を考えることができる。<sup>注29</sup>

#### ③ 隣人の反応

動画⑮では、塞翁の発言や反応の後に、さらに次のような隣人の反応を加えている。

⑥ 隣人は塞翁が混乱しているのだと思った。

⑦ 馬が逃げたのは明らかに悪いことなのに塞翁はおかしい。これを良いことなのだと自分で自分を慰めているのだと隣人は思った。

学習指導において、このような隣人の反応を考える活動は説話を我が事に結びつけて内容を理解するのに有用である（以下、同じ）。

#### 【第二場面】逃走馬が胡の駿馬を連れ戻る

#### ① 隣人の反応「人皆賀之」

この場面における隣人の反応は、本文通りに「祝福した」とするもの以外に、具体的な発言として「よかったですね」「あなたには先見の



明があり、本当に幸せですね」などと示すものがある(ア①オ②ク③)。これを生かした発問については前稿(前編)三(三)⑥参照。

## ② 塞翁の反応「此何遽不能為禍乎。」

隣人に対する塞翁の反応は、本文通りに塞翁の発言「いや、このことが禍になるかもしれない」のように発言意図を捉えたものを示すものが多い。これ以外には「顔を曇らせる」「憂鬱そうに言った」「ため息ぎみに言った」のように発言の様子を加えるものがある(ア④キ⑤ク⑥)。

## ③ 隣人の反応

動画⑦⑧では塞翁の反応の後に、さらに隣人の次のような反応を加えている。

⑦ 隣人は大笑いし、塞翁を愚かな老人だと思った。

⑧ 隣人は塞翁がずる賢く嬉しくないふりをしているのだと思った。

## 【第三場面】息子が落馬し、大腿骨を骨折する

## ① 隣人の反応「人皆弔之」

塞翁の息子の骨折に対する隣人の反応は、本文通りに「塞翁を慰めた」「見舞った」とするもの以外に、「かわいそうなことになりましたね」「災難でしたね」と具体的な発言を示すものがある(ア①オ②ク)。これに関する発問については前稿(前編)三(三)⑨参照。

## ② 塞翁の反応「此何遽不為福乎。」

塞翁の反応には本文通りに塞翁の発言を示すもの以外に、ア「笑って言った」と発言の様子を加えるものがある。塞翁の発言については、動画の多くは反語の句法の直訳ではなく、「いや、このことが福になるかもしれない」のように発言意図を捉えたものとなっている。

なお、前稿(前編)の三(三)⑩では、塞翁がこの発言(台詞)をどのような調子で発したかを解釈し実際に発言し合うことを提案している。これは、「古典の作品について、その内容の解釈を踏まえて朗読

する活動」(「古典探究」思判表A(2)エ)に該当する。

## ③ 隣人の反応

動画⑦⑧では塞翁の発言、反応の後に、さらに隣人の次のような反応を加えている。

⑦ 隣人は塞翁がまた訳のわからないことを言っていると思った。

⑧ 塞翁がまたつまらないことを言っている。足の骨折でどのような福が得られるというのだと隣人は思った。

## Ⅱ「塞翁が馬」の寓意

次に、「塞翁が馬」の寓意について動画内におけるまとめ(後掲「資料2」)を用いて理解を深める言語活動例を提示する。

動画⑨を見ると「塞翁が馬」の寓意を次のようにまとめている。

結局、人生は何が起こるか分からない。一見、不幸なことに見えることが幸福につながるがあったり、その逆もある。世の中の幸福や不幸は予測ができないものだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではない。(傍線、傍点は筆者)

前半の傍線部が「塞翁が馬」に託された意味(寓意)である。すなわち、「塞翁が馬」の主題「夫禍福之転而相生、其変難見也。」であり、「故福之為禍、禍之為福、化不可極、深不可測也。」から導いている。そして、後半の傍点部は寓意から字べる点、つまり、教訓であることを理解する。これは、⑦「私たちは良いことが起きてもあまり得意にならず、悪いことが起きてもあまり落ち込まず、平常心を保つことが大切である。」についても同様である。一方、動画⑦のまとめの後半にある「何かが起きること自体に意味はなく、その意味は当事者が決めること」、また動画⑧の

まとめ「短期的には損失を被るかもしれない。しかし、長期的には利益を得ることが可能である」は、先の④⑤とは異なった教訓が示されている点に注意を向けさせる。<sup>注31</sup>

この点について、楠山（一九八三）に従って『淮南子』の禍福論の観点から補足して説明すると次のようになる。

道徳を至上とする儒家によれば、人は人として為すべきことを為せという立場になる。すなわち、『論語』に基づけば「禍福はままならぬもの、人はこれを度外において善に努めよ」という立場である。また、『孟子』に基づけば「福についてはこれを天祐として謙虚に受け止め、禍についてはこれを己れの罪として反省する」立場である。

次に、道家の『老子』に基づくと、「禍は福の後によりそうもの、福は禍の中にひそむもの、〔転変する〕禍福の窮極は誰れにも分らない」。要するに、「禍福を区別して一喜一憂することのおろかしさをいっている」という立場である。また、『莊子』によっても「禍福はままならぬもの、これに一喜一憂することは徒に人の精神を傷うだけである」という見解になる。

それから、墨家では、人の行為の善惡に対して、天・鬼神は必ず賞罰を下してこれに報いると説く。そして、『墨子』に基づけば「禍福はままならぬものとは考えず、これを己の責任とする」という立場になる。

こうしてみると、雑家としての『淮南子』は、「孔孟の儒家思想」「道家思想」「儒家、道家の思想」（本稿の四（三）③ウエオ）を含んでいることがわかる。そして、先の動画④⑤が示す寓意、教訓は「道家思想」として位置づけられることが明らかとなる。さらに、これを契機に「塞翁が馬」の真意が「一時的な禍福に一喜一憂することなく、窮極の福（もはや転変することのない福）を見通していた人物としての塞翁を敘するにある<sup>注31</sup>」という理解に達することになる。

以上、教材本文と「ウェブ動画」教材の内容を比較対照しながら整理する言語活動、各動画が示す寓意、教訓を用いて「塞翁が馬」の内容理解を掘り下げる言語活動例を提案した。このことから、ICTを活用した新たな学習指導の方法と方向の示唆が得られるものと考ええる。

## おわりに

これまで前編・後編にわたって教材「塞翁が馬」を対象に教材分析から教材解釈、そして学習指導法まで広義の教材研究を行ってきた。前編の教材分析では、導入段階においては教科書三社に収載された各本文が頭括型、尾括型、双括型の文章構成であることに着目した。また、展開段階では、先行研究を基に本文の分析、注釈を行うとともに、現代社会や現代高校生と関連付けた解釈による注釈を行った。

後編では、故事成語、寓話、道家思想の観点から教材「塞翁が馬」の扱い方、解釈の在り方を考察した。そして、「塞翁が馬」の指導実践事例、言語活動例を示すとともに、ウェブ動画を用いた新たな学習指導の在り方を提案した。本稿の教材研究を踏まえた具体的な学習指導案の作成と学習指導の実践研究については別稿を期したい。

## 注

1 「故事」は昔のこと、古いこと。故実や典故となること。「成語」は人々が長い間使っている、簡潔で精巧な一定の型を持つ単語の組み合わせ、もしくは短い句。『精選言語文化』（明治書院、二〇二二年）一三三頁。

2 『小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編』では、ことわざは生活経験などにおいてありがちなことを述べたり、教訓を述べたりするものであ

るとし、「塵も積もれば山となる」「善は急げ」「石橋をたたいて渡る」などを例示する。故事成語は中国の故事に由来する熟語であり、「矛盾」「推敲」「五十歩百歩」などを例示する。そして、これらによって先人の知恵や教訓、機知に触れることができるとしている。なお、「問」の発展学習として、故事成語を大きく故事（アウキ）と寓話（イオカ）に分類させることも可能である。

- 3 『故事・成語Ⅰ』は『漢詩・漢文解釈講座15 故事・寓話Ⅰ 故事成語』（昌平社、一九九五年。以下、同じ）。なお、明治書院『精選古典探究 漢文編』では「故事・寓話」の単元を設けている。

- 4 「寓話」と「説話」の意味・内容は井上（二〇二三年）三～四頁。

- 5 一方、松村（二〇一七）は、「国語総合」において「MY 塞翁が馬」を書かせる実践を報告している。これは、高校一年生が現代の「塞翁が馬」の例を四コマの漫画・イラストまたは四枠の文章で書き換え（創作し）、説話内容を再確認することを目的とするものである。また、明治書院『精選古典探究 漢文編』は各事件に対する「人」と「父」の対照的な反応がよく分かるようにあらすじをまとめ発表する言語活動を設けている。他方、古典古文の場合でも「季語でクイズ大会を開こう」のように学習活動にゲーム的な要素を加えて生徒の興味・関心を喚起したり、知識・理解を定着させたりする事例が紹介されている（文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集』思考力、判断力、表現力等の育成に向けて）『高等学校版』教育出版、二〇一四年）。

- 6 井上（二〇二〇）は、三つの出来事を「ア」事象（禍・福）の発生、イ）人々の反応（慰め・祝い）、ウ）老人の言葉（反語）、エ）歳月の経過（居数年、居一年）、オ）新たな事象の発生（老人の言葉の中）という構造で捉えている。

- 7 桐原書店『探求言語文化』コラム7。

- 8 『精選言語文化 指導書漢文編』（東京書籍、二〇二二年）九六頁。

- 9 金谷治『中国思想を考える』（中公新書、一九九三年）一〇七頁。

- 10 向井哲夫『淮南子』と諸子百家思想』（朋友書店、二〇〇二年）二二九頁。ま

た樋口（二〇二三）によれば、「塞翁寓話」が道家思想の影響を受けた運命随順論である一方で、「人間訓」の本来の基調は人間の知恵と意志により人生と世界を積極的に創造することを論じたものであり、当該寓話が異質であると指摘するものであるという。九一頁。

- 11 『精選国語Ⅰ新修版 指導資料』（明治書院、一九八五年）。

- 12 湯浅邦弘(a)「高等学校漢文教育の現状と課題―「塞翁馬」と道家思想教材をめぐる―」（『島大国文』14、一九八五年）四六頁。また、湯浅邦弘(b)では、その故事自体がどのような背景からどのような人によっていつ発せられ、究極的には何を主張しているのか、といった究極的意味の追究の方向へと展開していき、と指摘し、応用期には「入門期で果たし得なかった故事成語の真相解明と、具体的なイメージによる各思想の理解」が重要であると主張する。

- 13 『高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 国語編』（東洋館出版、二〇一九年）「言語文化」 思判表B(1)オの解説。一二二頁。

- 14 『新釈漢文大系62 淮南子下』（楠山春樹、明治書院、一九八八年。以下、『新釈』と略す。）一〇二〇頁。

- 15 「術」については「見本而知末、観指而睹帰、執一而應萬、握要而治詳、謂之術。」（本を見て末を知り、指を観て帰を睹（み）、一を執りて萬に應じ、要を握りて詳を治む、之を術と謂ふ。）。『新釈』一〇二二頁。

- 16 例えば、「故事・寓話」単元を設ける明治書院『精選古典探究漢文編』ならば、「五十歩百歩」「三人成虎」などを扱うことが異種「寓話」の比べ読みとなる。

- 17 『万治絵入本 伊曾保物語』（武藤禎夫校注、岩波書店、二〇〇〇年）。

- 18 例えば、樋口（二〇二三）は、時代背景の観点から『史記』『始皇本紀』『蒙恬列伝』、「塞翁寓話」の日本での受容の観点から室町時代の行巻『壺囊鈔』巻三を挙げている。

- 19 「古典探究」ならば、「寓話」の観点の場合と同様に、指導事項「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解

釈を深め、作品の価値について考察すること」（思判表A(1)エ）。また、言語活動は「同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動」（同(2)イ）。

- 20 「古典探究」において「塞翁が馬」を収載する教科書は、大修館『古典探究漢文編』『精選古典探究』、三省堂『精選古典探究漢文編』、明治書院『精選古典探究漢文編』の三社四種。

- 21 湯浅邦弘(a)。これを踏まえたものとして次のものがある。「塞翁」は、「禍福」それぞれに一喜一憂するのではなく、一歩先を読みながらも平然とし、その本質が何かをしっかりと見定めようとする。それに対して人々は、目の前の「禍福」のみを見て一喜一憂する。そこには、その先に「禍」があるうとも、別段対策も立てずにあるがままそれを受け入れようとする「塞翁」の思想がある。

注8。東京書籍『指導書漢文編』一二三頁。

- 22 『新釈』一〇四五頁。

- 23 南部英彦（二〇〇八）参照。

- 24 禍福の転変は単なる偶然によって起こるものではない。偶然と見えることもみな、己が招来するものだということになる。『左伝』襄公二十三年にも「禍福無門、唯人所招」（禍福に門なし。人が自ら招くもの）という語がある。『故事・寓話Ⅰ』一四九頁。

- 25 公表された著作物は授業等に供することを目的とする場合は、第35条の権利制限で著作権者の許可なく利用することができる。教材用動画サイトはその用法を守れば問題ないが、動画共有サイトは注意が必要である。違法動画が含まれているかもしれない。（一般社団法人日本著作権教育研究会 <https://www.jccinfo/Q&A.html>「授業Q&A」）。

- 26 「学習指導要領」の総則において、教師がコンピュータや情報通信ネットワークなどの「これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」と記述されている。また、『学習指導要領解説総則編』

では、「これらの教材・教具を有効、適切に活用するためには、教師はそれぞれの情報手段の操作に習熟するだけでなく、それぞれの情報手段の特性を理解し、指導の効果を高める方法について絶えず研究することが求められる」と記述されている。（文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会（第4回）配付資料、第3章「教科指導におけるICT活用」第1節、二〇一八年）。

小・中学校対象のアンケートによると、ICTを活用した授業は児童生徒の「意欲を高めること」「理解を高めること」「思考を深めたり広げたりすること」「表現や技能を高めること」に効果的であると約八割以上の教員が評価している。（文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」第6章「ICTを活用した教育の効果」一八六頁、二〇二三年）。

- 27 塞翁の家から逃げ出した馬が連れ戻った駿馬の頭数は多くの動画では一頭、または不特定になっているが、アラン・ワッツは七頭としている。いわゆる幸運の数字、ラッキーセブン。他方、動画④を「言語文化」の思判表B(2)エ「和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動」に使用することも考えられる。

- 28 現代の文章や講演などで「塞翁が馬」を題名（または一部）に用いたものを収集し、その使い方、効果などについて考える学習を構想することができる。例えば、吉田寛郷「古典に学ぶ男の講座(14)人間万事塞翁が馬」(『Verdad』6(5)、四三頁、ベストブック、二〇〇三年)。あるいは、「塞翁が馬」を題目とした山中伸弥教授の講演の動画など。

- 29 中国語版⑤では「没准会带来什么福气呢」。対象動画以外の英語版には *Why isn't this a good thing?* と反語の訳出がある。

- 30 本稿四(二)(2)「本文A～Cの寓意」参照。

- 31 『新釈』二二二頁。



## 主な引用・参考文献

## 〔書籍〕

- 金谷治『中国思想を考える』（中公新書、一九九三年）  
 後藤基巳『中国古代寓話集』（東洋文庫、一九六八年）  
 向井哲夫『淮南子』と諸子百家思想（朋友書店、二〇〇二年）  
 森野繁夫『漢文の教材研究1 故事成語篇』（溪水社、一九八七年）  
 『漢詩・漢文解釈講座15 故事・寓話1 故事成語』（昌平社、一九九五年）  
 『新釈漢文大系62 淮南子下』（楠山春樹、明治書院、一九八八年）  
 『文禄二年耶蘇会板伊曾保物語』（京都大学国文学会、一九六五年）

## 〔論文〕

- 井上次夫「中国故事の享受・受容と現代日本人―古典漢文を掘り起こす中での再認識」『次世代に伝えたい新しい古典』（井上次夫・高木史人・東原伸明・山下太郎編、武蔵野書院、二〇二〇年）  
 井上次夫「教材研究『淮南子』「塞翁が馬」（前編）―教材分析から教材解釈・学習指導法まで」（『高知県立大学紀要 文化学部編』72、二〇二三年）  
 楠山春樹『淮南子』における人間観―禍福論を中心として―（金谷治『中国における人間性の探求』創文社、一九八三年）  
 杉下元明「人間万事塞翁馬―五山文学と日本文化」（『国文学言語と文芸』130、二〇一四年）  
 辻義人「視聴覚メディア教材を用いた教育活動の展望」（『小樽商科大学人文研究』115、二〇〇八年）  
 南部英彦『淮南子』人間篇の処世観とその思想的背景（山口大学教育学部『研究論叢』58、二〇〇八年）  
 樋口敦士「故事成語「塞翁馬」教材考―成立と受容の観点に照らして―」（『早稲田大学国語教育研究』43、二〇二三年）  
 湯浅邦弘(a)「高等学校漢文教育の現状と課題―「塞翁馬」と道家思想教材をめぐって―」（『島大國文』14、島大國文学会、一九八五年）  
 湯浅邦弘(b)「故事成語の思想的背景―入門期教材と思想教材の関係―」（『新しい漢文教育』全国漢文教育学会、一九八五年）

## 〔実践指導事例〕

- 阿部正和「漢文に苦手意識を持つ生徒への工夫②―「塞翁馬」を教材に用いて」（『漢文教育』25、漢文教育研究会、二〇〇〇年）  
 石井健介「故事成語」を中心とした学習指導「塞翁が馬」など」（『ことわざ・故事成語・慣用語を中心とした学習指導事例集』花田修一、明治図書、二〇一一年）  
 加藤文彬「寓話を用いた「言語文化」の授業提案…「黔之驢（けんのろ）」と「伊曾保物語」の比べ読み」（『漢文教室』207、二〇二二年）  
 菅原利晃「漢文「寓話」の授業…漢文を生徒の日常に近づけ親しませる学習指導」（『解釈 国語・国文』59、解釈学会、二〇一三年）  
 立川和美「寓話」を漢文の導入期に読む―高等学校1年生における実践」（『教材学研究』16、日本教材学会、二〇〇五年）  
 西川ゆみ「新学習指導要領下における故事成語教材の指導法の在り方にて―「漁夫の利」を中心に」（『志學館大学教職センター紀要』5、二〇二〇年）  
 松村美奈「古典作品を「自分の言葉で書き換える」言語活動」国語総合（古典）『伊勢物語―「筒井筒」・「寓話―「塞翁が馬」の授業実践より』（愛知大学教職課程研究年報』7、二〇一七年）

## 〔教科書関係〕

- 『言語文化』（筑摩書房、二〇二二年）  
 『精選言語文化』（東京書籍、二〇二二年）  
 『探求言語文化』（桐原書店、二〇二二年）  
 『言語文化』（文英堂、二〇二二年）  
 『新言語文化』（三省堂、二〇二二年）

『新編言語文化』（数研出版、二〇二二年）

『精選言語文化』（第一学習社、二〇二二年）

『精選言語文化』（東京書籍、二〇二二年）

『精選言語文化』（明治書院、二〇二二年）

『古典探究』（大修館書店、二〇二二年）

『精選古典探究』（三省堂、二〇二二年）

『精選古典探究 漢文編』（明治書院、二〇二二年）

『精選言語文化 指導書漢文編』（東京書籍、二〇二二年）

『精選国語Ⅰ新修版指導資料』（明治書院、一九八五年）

『小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編』（東洋館出版、二〇一八年）

『高等学校学習指導要領（平成三十年告示）解説 国語編』（東洋館出版、二〇一九年）

『言語活動の充実に関する指導事例集—思考力、判断力、表現力等の育成に向けて—【高等学校版】』（文部科学省、教育出版、二〇一四年）

#### 【その他】

一般社団法人 日本著作権教育研究会 <https://www.jceainfo/Q&A.html>

文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会（第4回）配付資料、第3章

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249668.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249668.htm)

文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」第6章

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2014/04/11/1346505\\_07.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/04/11/1346505_07.pdf)

（最終閲覧日：二〇二三年二月八日）

#### 資料1

##### ウェブ動画

㊦ 「きつぜシ 塞翁が馬」

(<https://www.youtube.com/watch?v=4WleIMctMIM>) 約4分間

㊧ 「おはなしヨーガ 塞翁が馬 \*nari-tanishi」

(<https://www.youtube.com/watch?v=G-qwPWQDmII>) 約4分間

㊨ 「人生（人間）万事塞翁が馬 \*柿的昔話」

([https://www.youtube.com/watch?v=aPtX\\_jGI4Wo](https://www.youtube.com/watch?v=aPtX_jGI4Wo)) 約2分間

㊩ 「たいやきのひとり」と人間万事塞翁が馬」

(<https://www.youtube.com/watch?v=K50vLSUzXE>) 約4分間

㊪ 「ゆっくり古典9『塞翁が馬』（淮南子より）」

(<https://www.youtube.com/watch?v=3ePTWGsfUz8>) 約3分間

㊫ 「ことわざ 人間万事塞翁が馬」

(<https://www.youtube.com/watch?v=KzI2FqzSgyI>) 約7分間

㊬ 「Chinese idiom stories 《塞翁失馬》」

(<https://www.youtube.com/watch?v=dealkeW12jA>) 約3分間

㊭ 「翻訳 人間万事塞翁が馬 アラン・ワッツ」

(<https://www.youtube.com/watch?v=sN7pR1pBcOQ>) 約3分間

㊮ 「5分児童動画成語故事系列 28 塞翁失馬」

(<https://www.youtube.com/watch?v=IX9KFYBOCto>) 約6分間

㊯ 「啞拉成語故事 塞翁失馬」

(<https://www.youtube.com/watch?v=TyrfKFFZ2oc>) 約3分間

（最終閲覧日：二〇二三年二月八日）

## 資料2

## (第一場面) 飼育馬が逃走した場面

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
隣人の反応	「残念ですね。」と慰める。	気の毒に思う。	言及なし。	気の毒がる。	「残念なことですね」とお悔やみを言う。	気の毒がつて慰める。	「もういいお年なのだから、気に病んではいけません」と慰める。	「災難でしたね」と励ます。	慰める。	「あまり心配しないで。高齢なので体を大事にしてください」と慰める。
塞翁の反応	「いや、このことが福になるかもしれない」と言う。	「このことは、幸せをはこんでくるかもしれないよ」と言う。	※ひどく落胆する。	「そのうちに福が来る」と言う。	「いやいや、この禍が福にならないであろうか？ 福になるよ」と答える。	「このことが幸運を呼び込むかもしれないよ」と言う。	ほほ笑んで「馬を失うことは大きな損失ではないし、祝福をもたらすかもしれない」と言う。	「かもね…」と答える。	穏やかに「これは良いことですな」と言う。	笑って「馬が逃げた損失は少ない。もしかしたら、これは何か福を招くかもしれない」と言う。

## (第二場面) 逃走馬が胡の駿馬を連れ戻った場面

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
隣人の反応	「よかったですね。」と祝う。	「よかった、よかった」と言う。	言及なし。	祝う。	「良かったですね」とお祝いを言う。	喜ぶ。	「あなたは本当に先見の明がある。馬は迷子にならず、立派な馬を連れ戻った。何と幸せでしょう」と祝福する。	「よかったですね」と言う。	(塞翁は大喜びだと思い)祝福する。	「先見の明がありますね。逃げた馬が良馬を連れ戻るとは本当に幸せですね」と祝福する。
塞翁の反応	「いや、このことが禍となるかもしれない」と顔を曇らせる。	「これはよくないことかもしれない」と言う。	※とても喜ぶ。	「これは不幸の元になるだろう」と言う。	「いやいや、この福が災いになるかも？ 禍になるよ」と答える。	「このことが禍になるかもしれないよ」と言う。	喜ぶ様子もなく「名馬を手に入れたも祝福ではなく、トラブルを引き起こすかもしれない」と心配そうに語る。	「かもね…」と答える。	ため息ぎみに「これは悪いことですな」と言う。	ため息ぎみに「これは悪いことですな」と言う。

## （第三場面）息子が落馬し、大腿骨を骨折した場面

隣人の反応	塞翁の反応
ア 「かわいそうなことになりましたねえ」と見舞う。	「いやいや、このことが福となるかもしれない」と笑って言う。
イ かわいそうにと見舞う。	「こんごのことは、いいことかもしれないよ」
ウ 言及なし。	※「あの馬さえいなかったら、うちの息子の足は不自由にならなかったのに」と恨む。
エ 見舞う。	「これが不幸の元になるだろう」と言う。
オ 「なんと残念なことですね」とお悔やみを言う。	「いやいや、この禍が福にならないであろうか？ 福になるよ」と答える。
カ 見舞う。	「このことが幸福をもたらすかもしれないよ」と言う。
キ 訪ねてくる。	「たいしたことではない。足は折れたが、命は助かった。幸いだったのかもしれない」と語る。
ク 「災難でしたね」と言う。	「かもね…」と答える。
ケ 慰めに来る。	笑って「腿の骨を折ることは悪いことではない」と言う。
コ 慰めに来る。	笑って「腿の骨を折ることは悪いことではない」と言う。

（※疑義あり）

## ■まとめ（寓意・教訓）

ア 人生思いがけないことが幸福を招いたり、不幸につながったりして、誰にも予測がつかない。だから、やたらに喜んだり悲しんだりしても始まらない。
イ 言及なし。
ウ 良いことと悪いことは常に交互に起きることのたとえでもあり、何が幸いするか人生はわからない。または、何かが起きること自体に意味はなく、その意味は当事者が決めること。その場合でも、後から考えれば良いと思ったことでも悪かったり、その後また逆になることもある。
エ 幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないのだから、安易に喜んだり悲しんだりすべきではないというたとえ。
オ 禍だと思っても福になるし、福だと思っても禍になる。禍福というのはどう転がるか判断がつかないし、その先のこととはわからない。その時、福だからとか禍だからかと思っても、どうなるか先はわからないのだから、一喜一憂するのは意味のないこと。
カ 結局、人生は何が起るかわからない。一見、不幸なことに見えることが幸福につながるがあったり、その逆もある。世の中、幸福や不幸は予測ができないものだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではない。
キ 短期的には損失を被るかもしれない。しかし、特定の状況下では悪いことが良いことに変わる可能性があることを暗示している。長期的には利益を得ることが可能である。
ク この世は非常に複雑な繋がり、均衡を保ち、存在している。ゆえに、そこで起きることが「良いか、悪いか」を判断するのは不可能なのである。「災難」は「幸運」に繋がるかもしれないし、逆に「幸運」が「災難」に繋がるかもしれない。物事の悪い悪いは決めがたい。そのどちらにも転ずる可能性がある。
ケ 私たちは良いことが起きててもあまり得意にならず、悪いことが起きててもあまり落ち込まず、平常心を保つことが大切である。
コ 禍福は一定の条件下で互いに転化する。どんなことにも両面性がある。



## 付記

本稿に対しては査読者から有益な指摘と助言をいただいた。ここに記し、感謝申し上げる。なお、本研究はJSPS 科研費 21K02498 の助成を受けたものである。

高知県立大学文化学部教授

Professor, Faculty of Cultural Studies, University of Kochi